

情報クリップ

農業情報ピックアップ

4/1 死んだ牛のBSE検査開始

病気や事故が原因で死んだ2歳以上の牛を対象とする牛海綿状脳症(BSE)の全頭検査が1日から全国でスタートしたが、農水省によると、検査に必要な施設が整わないなどの理由で16道県が同日から実施できないでいる。これらの自治体は、検査態勢が整い次第順次始めるといふ。(共同)

施設整わず16道県見送り

国際関係

3/21 農業用水確保で関係強化を「水と食と農」閣僚会議

滋賀県大津市で開催されている第3回世界水フォーラムで、「水と食と農」の閣僚会議が開かれ、財政や技術面での援助を通じて先進国と発展途上国の協力関係を強化することを盛り込んだ勧告文を採択した。

今後世界の人口が増大する中で、食料確保と貧困緩和のため、農業用水の開発と維持を強化し、生産性の向上を図るとしている。

WTO農業自由化交渉で、日本やEUが自国の農業を保護する理由として挙げている「農業用水には食料生産以外に環境保全など多面的役割がある」との考え方は、「認識すべきだ」として勧告文に取り入れられた。(共同)

3/29 イラク復興支援はコメで米余り解消と一石二鳥

イラクの戦後復興や難民支援に、政府米の備蓄を活用する案が農水省で浮上している。「顔が見える援助でコメ余りの解消も」との思惑だ。

同省によると、政府米の在庫米は国産が約150万t、義務的な輸入米が約100万tで、合わせ

て国内消費の約3ヶ月分。例年援助に使う18万t20万tは、輸出国からの批判を避けるため「国産と輸入がほぼ半々」(食糧庁)だ。

イラク周辺では輸入米と同じ長粒種が好まれており、この際、安価で財政負担が少ない輸入米を大いに「活用」したいとの意見もある。(朝日)

4/1 WTO新ラウンド包括合意は可能 米USTR代表

ゼーリック米通商代表部代表は会見し、農業交渉のモダリティー(大枠)合意断念について、「我々は新ラウンドのプロセスをさらに前進させることができる」と述べ、04年末を目標とする新ラウンドの包括的な合意は依然可能との考えを示した。

また、同代表は「貿易自由化の最大の恩恵国が日本の経済の2%を占めるに過ぎない農業保護にこだわるのとおかしい」とも述べ、農業市場開放に慎重な日本の姿勢を批判した。(毎日)

構造改革・農協改革

3/28 農協改革 農水省研究会が報告書まとめる

農水省の「農協のあり方についての研究会」は、農協改革の報告書をまとめた。農業協同組合の経営は、農産物

や肥料、農薬の販売など経済事業の赤字を、金融や保険を扱う信用・共済事業の黒字で埋めているのが現状。報告書は、低金利などで収益が減っているため、「経済事業の収支改善が急務」と指摘した。特に、産地偽装事件で消費者と生産者の信頼を失った全農の改革を試金石と位置付けている。

農協の農畜産物の販売取り扱いは高は減少が続き、00年度は4兆9500億円と、10年間で23%減った。米価下落に加え、農協を通さず自力ルートを開拓し販売する農家が増えたのが原因で、今では農協を通す販売は56%しかない。(毎日)

4/1 公社保有地に農産物基地

和歌山県は、構造改革特区として、県土地開発公社保有地を民間企業に賃貸し、農産物の大規模生産拠点などを整備する「新ふるさとづくり特区」を認定申請した。和歌山市北部の広大な未利用地の一角に、食品大手会社を誘致し、アジア最大規模(約40ha)となるコンピュータ制御の温室でトマトを生産する計画を後押しする。

市町村が遊休農地を借り上げて農業法人以外の法人に貸し付ける制度や、森林整備の担い手として受け入れた都市部からのイターン希望者らが農地を取得して定住しやすくする仕組みなども計画に含まれている。(共同)

食品・偽装表示

3/13 中国産を大分産と偽装シイタケ業者2社

大分県林業水産部は、県内の干

しシイタケ業者2社が中国産干しシイタケを大分産と偽って販売していたと発表した。

大分県の干しシイタケは「一村一品」の代表格。業者は県に対し「大分産と表示するとよく売れた」と説明しているという。

藤徳商店は1999年から、国産価格の三分の一程度で仕入れた中国産の一部を大分産と偽装表示し、年間数10tを全国の土産物店などに出荷していた。(共同)

3/14 「味よくするため」と供述

福岡県産ブランド米「夢つくし」の虚偽表示事件で、福岡県警が不正競争防止法違反の疑いで家宅捜索した米穀卸売業「内田米穀」の社長が、調べに対し「味をよくするために、別品種のコメを混ぜた」と供述していることが分かった。

社長は「高い価格のコメも混ぜた」と話しており、県警のDNA鑑定でもコシヒカリの混入が確認されている。(共同)

3/14 食品表示に2000超の問題点

福岡県のブランド茶「八女茶」の産地表示を偽り、農水省から業務改善命令を受けた全農は、事業の総点検をした結果、2163件の問題点が見つかったと同省に報告した。

報告によると、全農の佐賀園芸販売所で、タマネギの仕入れ先の名称を別の農協名にしたまま長崎や鹿児島などで販売していたほか、コメについて「特選」「厳選」などの不当な強調表示をしたり、年産の記載が欠落しているケースがあ

った。(共同)

3/20 国産豚肉に外国産混ぜ販売 岐阜県可児市の生協店舗で

生活協同組合コープぎふの可児店で、外国産の輸入豚肉を混ぜた豚肉を「国産豚肉」と偽装表示して販売していたことが分かった。

コープぎふによると、可児店では昨年から今年にかけ、国産の豚肉に、外国産の豚肉を混入したものを「国産豚肉」と偽装表示し販売した。コープぎふは販売量を調査し、対応を検討している。(共同)

3/24 偽装そば販売で3人起訴

旭川地検は、中国産そばが北海道旭川市特産の「江丹別そば」に偽装されていた事件で、不正競争防止法違反の罪で、旧神居農協の元組合長と、東京などの取引業者2人を起訴した。

起訴状によると、久保被告ら3人は旭川市内の雑穀会社社長と共に謀し、00年5月から約10ヶ月間、中国産のそばの実計約190tを「江丹別町特産そば」と表示したラベル付きの袋に詰め替え、販売していた。(共同)

3/26 コメの適正表示認証マークを不正使用

石川県内のコメの大手小売会社が「コシヒカリ100%」と表示したコメに食糧庁の外郭団体が検査を済ませたコメに発行している適正表示の認証マークを不正に付けていた疑いが強い事が、食糧庁などの調べで分かった。

食糧庁では認証マークが減っていたことについて会社側の説明が二転三転したことなどから、検査

を受けずに認証マークを不正使用していた疑いが強いとしている。(NHK)

テクノロジー

3/25 成長操る新たんばく質発見

食糧増産のカギとなる可能性がある新しいたんばく質を、名古屋大学生物分子応答研究センターの松岡教授らのグループが見つけた。今回見つかったのは「GID2」というたんばく質。植物は自らの背が伸びるのを抑える「ブレイキたんばく」を持っていて、ジベレリンという植物ホルモンと出会うとこのブレイキが外れてしまう

とされている。松岡教授らは、GID2がこのブレイキを外す役割を果たしていることを突きとめた。(朝日)

3/31 光合成利用の発電技術開発

松下電器産業は、米アリゾナ州立大学と共同で、光合成の仕組みを利用し、人工の葉緑素を使った発電技術を開発したことを明らかにした。将来的には、食物などから電気を取り出すことも可能になるという。

松下の先端技術研究所と同大学の共同研究グループは、光エネルギーから葉緑素を使ってでんぷんを作る植物の光合成の仕組みに着目。光合成とは逆に、人工葉緑素を電極として、でんぷんを酵素で分解。その際、太陽光を当てることで反応を促進し、エネルギーを発生させて発電する技術を開発した。

人工葉緑素は、葉緑素に似た感光性の人工色素のポルフィリン系化合物を素材とした。実験では、単3電池の約100分の1に当たる

電流が得られたという。(共同)

4/2 生存に必須の遺伝子を解明

細菌ゲノム研究の代表的なモデルである枯草菌の変異株を使った研究から、271の遺伝子が細胞の生命活動に必須であることが分かり、奈良先端科学技術大学院大学の小笠原直毅教授(情報生命科学)らが発表した。(時事)

トピックス

3/14 遺伝子組み換え国際会議

遺伝子組み換え食品に関する国際会議が横浜市で開かれ、遺伝子組み換え微生物を使ったヨーグルトや味噌などの食品については安全性の評価を導入することで合意、微生物がヒトの体を与える影響などを検討するよう求めたガイドラインを作った。

この国際会議は、遺伝子組み換え食品の安全性の評価について世界共通の基準を作るため、FAOなどが開いたもので、世界34ヶ国の代表が参加した。(NHK)

3/22 環境考えた野菜をどうぞ

国際規格で消費者へ環境にやさしい野菜を消費者に届けようと、高知県は県産野菜の生産から販売までに環境ISO(ISO14001)をクリアした農家や企業だけが携わるようにする「こうち農業ISO14001チェーン構想」を進めている。県によると全国初の試み。

県の補助金で既に336戸の農

家が環境ISOを取得。流通・販売分野では高知園芸連、輸送会社2社、量販店1社が取得している。06年までに生産者と消費者を環境ISO取得者だけで結ぶチェーンを完成させたい考え。将来は県のホームページや量販店の端末で野菜のたどった経路が分かるようになる。(共同)

5月のイベント

(国内)

●西日本食品総合機械展
5月21~23日
会場 マリンメッセ福岡
内容 「食の安全性」「食産業の問題解決」「食のネットワーク作り」をテーマにした、食品関連機器・システムの見本市
主催 日刊工業新聞社 西部支社
問い合わせ 092-271-5715
公式サイト <http://www.nikkan-seibu-eve.com/food/>

(海外)

●AGROBALT 2003
会場 Lixepo (リトアニア・ピリニユス)
内容 食品・飲料、農林水産業、包装の見本市
主催 Lithuanian Exhibition Centre-LITEXPO
問い合わせ +370-5-2686829
公式サイト <http://www.litexpo.lt>

●THAIFEX 2003

5月28~29日
会場 Bangkok International Trade & Exhibition Centre (タイ・バンコク)
内容 食品専門の見本市。タイ各地方の特色ある産品・製品も出展
主催 タイ国政府商務省輸出振興局
問い合わせ +66-2511-6020-30 ext.764,704
公式サイト <http://www.thaifex.com/>